

豊橋技術科学大学長 殿

平成10年3月2日

審査委員長 渡邊 昭彦 印

論文審査及び最終試験の結果報告書

このことについて、下記の結果を得ましたので報告いたします。
記

学位申請者	谷 武	学籍番号	第 903624 号
申請学位	博士(工学)	専攻名	システム情報工学専攻
論文題目	ライフサイクルマトリックスに着目した住宅型別世帯数の定量分析及び予測に関する研究		
公開審査会の日	平成 10 年 2 月 23 日		
論文審査の期間	平成10年1月28日～平成10年3月2日	論文審査の結果	合格
最終試験の日	平成 10 年 2 月 23 日	最終試験の結果	合格

論文内容の要旨

本研究は、ライフサイクルマトリックス (LCM: 世帯主の年齢別世帯人員数のクロス統計) に基礎をおく、住宅ニーズ算定手法論の確立を目指した研究である。現在は人口や家族構造の大変動の時代に入っており、地方自治体が独自の住宅マスタープラン作成を試み始めた時期でもあり、住宅需要分析の簡便な手法論が求められている。本研究は、序章を含めて8章から成る。序章: 研究の目的と方法、第1章: 研究の基本事項と既存研究の整理、第2章: 人口構造と世帯構造 (LCM) の分析、第3章: 世帯構造 (LCM) と住宅需要構造の関係、第4章: 特別集計結果によるLCM分析、第5章: 住宅型別世帯数予測の手法論と試行、第6章: 補完的分析、そして結論となっている。第2、3章で、人口構造・家族構造・LCM、LCMセル別住宅所有関係等の関連比率が、地方 (47都道府県) 別にある地域差を持つが、傾向値は極めて類似的であることが長期の時系列データで示されている。第4章の住宅統計調査の愛知県分の特別集計により、一時期断面の多様な関連データを整理し、第5章の予測方法論につなげた。また、愛知県での予測データを作成し、住宅マスタープランにとっての有効データを提供できることを確認した。第6章でLCMデータが統計上表章されていない部分についての年齢別データ分析による補完を行い、結論で全体をとりまとめ、今回予測の成果と今後の課題を整理している。

審査結果の要旨

地方自治体の住宅政策 (住宅計画) は、その地域の住宅ニーズを正しく把握し、現在の住宅市場に対して一定の誘導・規制策をとることで、よりよい方向性をもたせるところに目的がある。

本研究は、LCMの各セルの世帯が、隣接セルとも類似性を持ちつつ、特有の住要求を持っていることに着目し、この統計表章に新しい意味をもたせて、住宅ニーズの算定を行おうとするところにユニークな着眼がある。人口の停滞、高齢化、少子化などによって、家族構造が大きく変化している現在、人口: 家族 (世帯): 住宅需要を連続的につなげるこの手法は、現在の日本社会の背景条件にマッチしたものと言える。ストック量の変化を予測することで、極めて安定的な予測値が得られることを明らかにし、また、このストック量の変化を前提とした建設フロー量の計量化という今後の課題の方向性も示し得ている。複雑な内容をもつ住宅需要について、住宅ニーズ量の安定的な予測手法の開発という点で高く評価し得るものである。

以上により博士 (工学) の学位論文に相当するものと判定した。

審査委員

渡邊 昭彦 印 加藤 幸一 印 大貝 彰 印
石宅 醇 印

(注) 論文審査の結果及び最終試験の結果は「合格」又は「不合格」の評語で記入する。